学校だより
庭の桜の はなもみじ
春秋ごとに匂うなり
平成23年7月1日
千曲市立屋代小学校
№15

# 思いやりから思い合いへ ～ 稲荷山養護学校との交流を通して ～

## ６年生の交流

６年生の学級は、昨年度から稲荷山養護学校の友達との交流を続けています。６月２７日（月）には、今年度初めての交流に出かけ、１時間程、ともに楽しみました。

一緒にマルモリ体操

【自分の思いを伝えるには】相手の目を見て、ゆっくりはっきりとしゃべらないと、伝わりません。理解できないとしても、気持ちが届きます。
【相手の思いを知るには】表情の変化、手足の動き等を見ていると、感じるものがあります。

ふれあいの中で、６年生は障害のある子どもとその教育に対する正しい理解と認識を深めることでしょう。これからのともに助け合い、支え合って生きていく社会をつくる子どもたちにとって、貴重な経験になるはずです。

## １年生の交流

稲荷山養護学校に通う本校の学区の１年生は、週に１回、本校に登校してきます。１年生の学級で保育園のときに生活した友達、そして、新しい仲間と２時間程の学習をしています。

１年生では、平仮名の読み書き、足し算・引き算の概念の理解等、幼稚園・保育園とは違う学習が始まります。勉強に興味をもち、どんどん吸収する今でないと身につかないことがたくさんあります。友達と楽しく学習する中で、自然と知識を獲得していくときです。

友達と音楽の授業

養護学校では、大勢の友達とともに生活する機会が少なくなりがち。地元の小学校での経験は、コミュニケーション能力を伸ばし、同じ地域で生活する友達同士の好ましい人間関係を育てます。

「思いやり」という言葉は、やさしさを感じる言葉です。しかし、どちらかというと一方通行で、どこか「やってあげる」気持ちが強い気がしないでもありません。「思いやり」を「思い合い」という言葉にかえてみたらどうでしょうか。交流を通して、大切な仲間であることを学び、一つ一つのふれあいが、どちらにとっても貴重な経験となっていくようにしたいもの。お互い正しく理解し「思い合い」の気持ちを育んでいきたいと思います。

# 新 キラリ輝くこの子のために 5

努力が報われないこともある

努力することは大切です。学校では、目標を設定し、それに到達できるように、努力をすることを教えます。がんばれば、漢字も覚えられるし、計算も速くできるようになる。努力してできれば、本当にうれしい。

「努力は報われる」と考えてよいでしょう。そうでなければ、だれも努力をしようとしなくなってしまいます。

しかし、同じ努力をしても、人それぞれ、結果が違ってきます。たとえば、イチロー選手と同じ練習を積んでも、イチロー選手のような活躍はできないかもしれません。第一、それだけの練習ができる人は、ごく限られていると思います。

がんばってもできないこともあることに気づくと、自分の価値が下がったように感じます。そんなとき、どうしたらよいのでしょうか。

「諦める」には、前向きな生き方がある

「諦める（あきらめる）」という言葉があります。私たちは、この言葉にマイナスのイメージをもちがちです。しかし、「諦める」は仏教の用語から来ており、物事を消極的に、後ろ向きにとらえることではなく、本来の意味は「明らかに究める（きわめる）」ということなんだそうです。つまり、しっかりと現実を知るということ。勇気をもって現実を受け入れ、認めたくない事実でもそれを認めることで、新たに一歩を踏み出すことができるのです。

できないことがあっても、許してあげることも必要ではないでしょうか。

上手に期待をしてあげることで子育てを

３、４才ころから、子どもはおとなの要求に積極的に適応しようとする努力を始めます。ほめられることが効果をもつ時期です。子どもは親や先生を信頼し、期待にこたえようと、けなげにがんばっているのです。少しの進歩でもともに喜び合いましょう。逆に、罰を加えることで子どもを何とかしようとすると、それ以外のよい行動も止めてしまうことになります。また、次には、さらに強い罰がないと、子どもの行動を規制できなくなります。大切なのは、子どもが少し努力すれば達成できるところに目標をおき、励ましてあげること。過度の期待は、努力してもできないことを増やし、子どもを苦しめることになります。